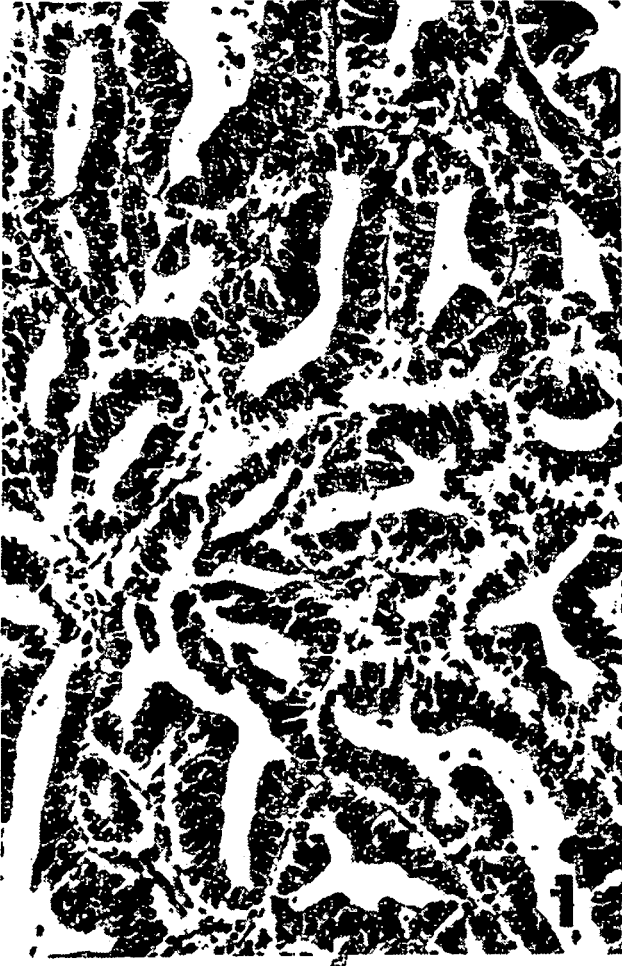
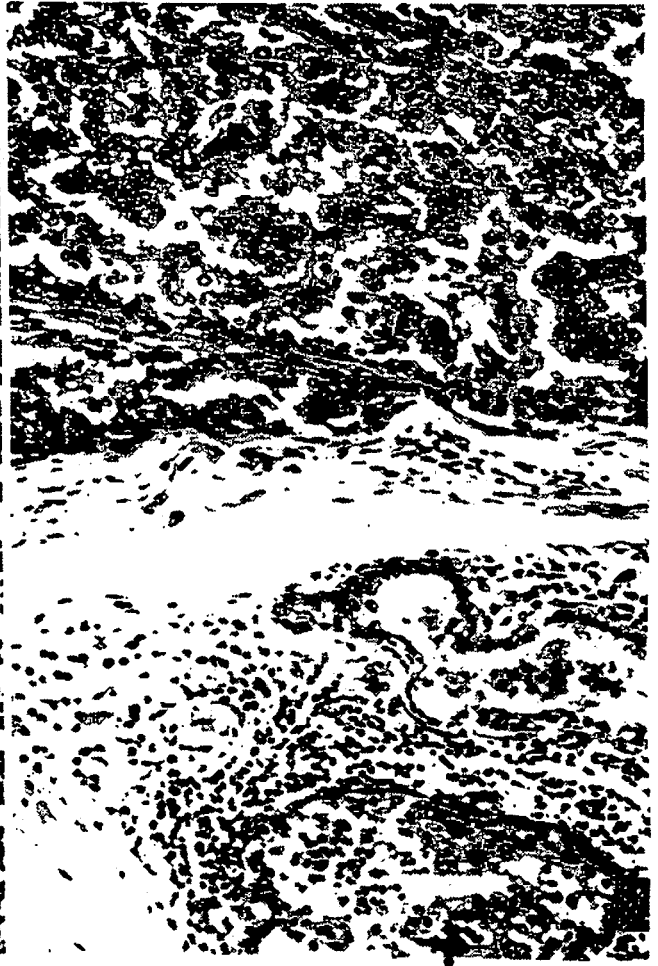


豚における重複腫瘍

岩手大学農学部家畜病理学教室出題
第10回獣医病理学研修会 No. 144



(1)



(2)

家畜の重複腫瘍の発生は犬に多くの報告があるが、その他の動物では極めてまれである。こゝに提示する標本は豚の胆嚢と乳腺における腫瘍である。本例の場合、これらの病巣が互にいつれか一方の転移病巣ではないかとの疑問ももたれたが腫瘍組織の構築像を詳細に検討した結果、これらはそれぞれ独立して発生した重複腫瘍例と認められた。

肉眼的所見：検体はと場から得られた11才のヨークシャーの雌である。1.胆嚢粘膜面全般にわたる類白色限局性膨隆の多発による小児拳大膨満。2.肝方形葉内臓面胆嚢起始部における肝組織の腫瘍性塊状腫瘤。3.左後乳房乳腺剖面にみられた粟粒大～大豆大の多発性結節。

組織学的所見：胆嚢粘膜は乳頭腫状に増生する腺細胞からなる腫瘍増生を示し、腫瘍組織は少量の膠原線維よりなる間質と大小不同の色質に乏しい核をもつ細胞から構成され、核分裂像も多数認められた(図1)。

乳腺は腺性に乳頭腫状に増生する腺細胞が観察され間質を内張りする様にして大小不同の核と色質に乏しい好塩基細胞が観察される(図2の上半分)。又拡張した腺胞壁を内張りする腫瘍性細胞の重層あるいは多層化、核分裂像をみとめた。これら腺胞には細胞頽廢物、巨細胞、好中球あるいは類澱粉小体も観察され、炎症性反応はつよいが、腺癌への移行像を示すものもみられた(図2下半分)。又乳管内にも異形性の強い細胞の内張りが見られた。

肝は不規則な配列を示す大小不同の肝細胞粗大集簇がみられ、こゝに巨核細胞の他種々の造血細胞が管内性に認められ、肝介在静脈には胆嚢の腫瘍細胞に類似する腫瘍細胞栓子が観察された。

組織学的診断：肝細胞癌、胆嚢上皮癌および乳腺上皮癌を伴う重複腫瘍